

「青梅市健康づくり推進計画(案)」にかかるパブリック・コメントへの意見内容およびそれに対する市の考え方

No.	御意見	市の考え方
1	昨今の健康に悪影響のある案件についての記載が見られないが、異常気象（熱中症等）、感染症（コロナ、新型インフル等）、社会生活（いじめ、差別、セクハラ、パワハラ、メンタル等）、社会問題（花粉症、PFOS等）、SNS（誹謗中傷、フェイク等）、経済問題（物価高によるエンゲル係数の上昇増加）、市民活動（子供食堂や民生委員の活動）など諸々の健康に関係する課題などがあるが、これらの問題点に対しては計画の中では取り組まないのか。個々の取扱い記載が必要ではないのか？	御指摘の課題のうち「社会生活」の一部の内容は、本計画で「休養・こころの健康」の項目の中で取り組みます。 その他の健康課題については、本計画の中では項目立てしてはおりませんが、市の他の計画とも必要な連携をとりつつ対応してまいります。
2	21 ページからアンケートの有効回答率 26%は低すぎるのではないかと。2,000 通にたいして 3/4 は返ってこない状況。世代別にみても 60 代以上の回答数は高いが、50 代以下（特に 10 代の男性）の数の数値を鵜呑みにするのは非常に問題がある。テレビすら見ない世代に対して郵送というアナログのアンケートだけでなく、ネット、SNS（ラインやXなど）などのデジタル要素を取り入れるのも時代ではないのか。偏りがなく平等に示す必要がある。	今回のアンケート調査では、お住まいの地域や年齢、性別などに偏りが出ないように配慮し、人口比率に合わせて無作為抽出を行いました。このことから、アンケート調査への回答依頼は、御住所への郵送のみにより行っております。また、回答に当たっては、調査票への記入だけでなく、ウェブ方式による回答方法も併用したところであります。
3	40 ページからの目標達成評価だが、特に 43 ページからの食育に関する評価はほとんど D、C の評価結果。目標の設定そのものに問題があったのではないかと。又、途中数年間の検証のタイミングもあったはず、経過後未達では。83 ページからの令和 6 年～令和 10 年の各部署の評価目標数値が毎年同数で検証もせず同じ数字を入れる事を繰り返すのでは、一定水準以上の伸びなどないはず。結果未達でしたとなる。目標に対しての増減の見直しを毎年していないのか。	43 ページからの食育に関する評価は、5 年前に策定した食育推進計画の中で適正と考え設定した目標に対して、5 年後の効果測定を行ったものです。 83 ページからの目標数値は、市の各部署が設定し毎年進捗状況を管理していくものであります。 今回の計画から、食育以外の取組も含めて数値目標を立てて、客観的な評価ができるようにしております。
4	そもそもこの計画案を見る限り、前次計画の文面に少し手を加えた程度に見える。目標数値にしても人的に作り、考えるのみでなく、AI での作成や検証が必要ではないだろうか。	この計画は、国の健康日本 21（第三次）の内容を踏まえつつ、健康増進計画と食育推進計画を一体化し、骨格を新たに作り直しております。個別の取組についても、数値目標を立てることなどにより、実効性を高められるように工夫をしております。 AI の活用については、今後の課題として研究してまいります。